

Working with the Organon

オルガノンへの取り組み

Torako Yui

Principal

College of Holistic Homoeopathy (CHhom)

2010年3月末には私が日本でRAHを開校して14年になります。当初、私は英訳されたオルガノンを底本として使っていました。しかし、私自身さまざまな矛盾を抱えていました。私の英語読解力にも問題があったでしょうが、それ以上に、英語版がドイツ語の原書を正確に翻訳できていない事に原因がある事がわかりました。

幸運な事に、今から4年前、古典ドイツ語に精通し、パラケルスス翻訳の第一人者に会いました。彼に、オルガノンをドイツ語原書から日本語に翻訳して貰いました。そのオルガノンを自分の言語で読んでいく内、その真の意義を本当に理解し、隅々まで何度も読みました。

日本語版オルガノン第六版では、各パラグラフの内容がオルガノンの第何版で書かれたのか直ぐにわかるよう、1から6まで番号を振っています。

各版を通してハーネマンの思考発展を示す、正確に翻訳されたオルガノンは、特に「慢性病」の研究と併せて、ホメオパシーを教える重要な文献によるツールです。オルガノンを完全に理解する為には、私は以下を考慮する事が重要だと考えます：

1. ドイツ語原書からの翻訳で正確である事を確実にすること
2. オルガノン第1版から第6版まで起こった変化に注意する事 — (例えば、どのようにハーネマンが、物質的毒性をもつ低ポテンシーを使用する事から物質レベルを超えるより高いポテンシーに変えたのかに注意する。)
3. 正確に翻訳されたオルガノンを忍耐をもって何度も熟読する事
4. ハーネマンの時代背景、政治的背景、そして彼の取り巻く状況を知る事。
5. 急性病と慢性病のハーネマンの異なるアプローチの更なる理解の為に「慢性病論」を研究する事
6. HLW も読む事。
7. ハーネマンの弟子に向けた手紙も読む事。

多くのホメオパスがオルガノンを読み、その教えを実践に適用する忍耐と動機がない。これは、時に、ハーネマンが本来推奨したホメオパシー原理と方法論の適用とかけ離れてしまうこととなります。このバランスを修正する為、私は、カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー (CHHom) を設立しました。このカレッジでは、RAH で 6 年以上リサーチした本来のハーネマンの教えを基礎とし、医原病の多い現代に併せた私自身で発展させた三次元処方教育をします。授業は、殆どのパートタイムコースの 3 倍以上の時間数です。ハーネマンとホメオパシーを完全に理解する為にはそれくらい時間をかける必要があると思います。

実効力あるホメオパスになる為には、忍耐を持ち、正確な観察力を持ち、最も適切な行動を取らなければならないとハーネマンは言っています。オルガノンを正しく理解したら、例えこの第 1 版が 1810 年、200 年前のものであろうが、今日にも関連している事が簡単に理解できます。自閉症や自己免疫疾患など難病を持つクライアントを治療する時でも、オルガノンを使うことができます。私は、オルガノンに書かれている様に、ハーネマンの教えを理解した結果、多くのケースを成功させています。

私は 16 年間ホメオパシーに関わっており、英国で教わったアプローチが、医原病大国日本に住む日本人には歯が立たない現実を突きつけられました。これは、このような複雑な状態を治す私自身のアプローチを開発したり、オルガノンや慢性病論から多く学ぶ事に導きました。結果として、長い年月がかかりましたが、私はようやくハーネマンの「真の」医学システムを発見しました。長い間の発見への苦しみは、いまようやく喜びに変わりました。